

市指定史跡 千人塚古墳 銅鏡と唐草文金具出土



千人塚古墳の横穴式石室内

今年七月から市教育委員会による整備に先立つ発掘調査が進む市指定史跡・千人塚古墳において、極めて希少な銅鏡や金銅製唐草文金具を含む豊富な副葬品が新たに発見された。同古墳は飛鳥時代(七世紀中頃)に築かれた県東部最大級の横穴式石室(全長十一・四m以上)を有する古墳であり、二〇〇二〜三年の調査において石室床面上から馬具の優品や土器等が見つかっていたが、今回床面の一部をさらに掘り下げた結果、新たな副葬品の発見に至った。最初の埋葬者に供えた副葬品を石室の入口付近に片付け、その上に新たな埋葬者(追葬)のための床を敷き直した結果、良好な状態で遺物が保存されたとみられる。

入口付近から土器や馬具多数

植物の葉や花をつる草でないだ文様の唐草文は、飛鳥時代の仏像や寺院建築に多用された意匠であり、冠等の装身具や馬具にも波及する。千人塚古墳では同じ仏教意匠である光芒文の毛彫馬具も出土しており、配布元である飛鳥宮の王権と埋葬者が深い関係にあったことが窺える。

仏教美術意匠の金具



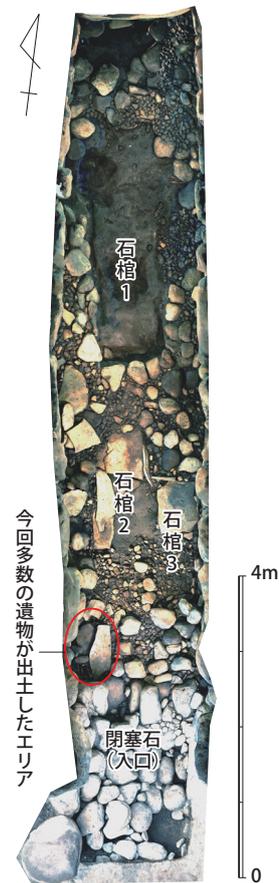
2024年(令和6年)
10月12日(第16号)
富士市教育委員会
文化財課
富士市埋蔵文化財調査室



石室入口付近の遺物出土状況(追葬面下層、北から)



同遺物出土状況(左写真のさらに下層、北から)



今回多数の遺物が出土したエリア



銅鏡(発掘調査による完形品の出土は市内初。直径約12cm)



金銅製唐草文金具(装飾用の金具。右の金具の幅3.3cm)

石室床面検出状況(オルソ画像)